

# 美 唄 市 農 業 の 概 要

平 成 1 6 年 1 1 月

美 唄 市 経 済 部 農 政 課

## 1 美唄市の概要

### 位置・地勢

美唄市は、北海道のほぼ中央部にあって、札幌市と旭川市のほぼ中間に位置し、市内をJR函館本線、国道12号、北海道縦貫自動車道が南北に、また道道美唄月形線が市中心部から石狩川を挟んで西に隣接する月形町を経て札幌・石狩方面へつながり、交通の要衝となっています。

東部は比較的標高の低い山岳丘陵地帯であり、夕張山地に属し豊富な森林資源を蓄積しています。西部は石狩平野に属する低地帯ですが、石狩川の肥沃な土壌に恵まれた道内有数の穀倉地帯です。

行政区分的には空知支庁管内にあり、岩見沢市、滝川市に次ぐ第3位の人口を擁します。特に管内南部の4市6町1村で南空知地方をなし、広域組織として南空知ふるさと市町村圏組合が組織されています。

東端	東美唄町	東経 142° 3 50	広ぼう	東西 32キロメートル
西端	西美唄町	東経 141° 40 40		南北 19キロメートル
南端	峰延町	北緯 43° 14 46	面積	277.61平方キロメートル
北端	東美唄町	北緯 43° 24 58	海拔	26.8メートル

### 気候・自然

気象は内陸的であり、年間最低気温と最高気温の較差は50 に及びます。また、年間降水量は1,200mm内外で8月から9月にかけて多く、春は南風の日が多いものの、東西の山により全体的には強風の影響は少なくなっています。

かつて美唄市には、国内最大規模の高層湿原原野が広がり無数の沼がありましたが、この沼も少しずつ減少し、今でも残っているものの一つに「宮島沼」があります。ガン・カモ類、ハクチョウをはじめとする多くの渡り鳥が飛来するこの沼は、日本とシベリア間を渡るマガンの中継寄留地であり、毎年その飛来数は増加し、平成14年春には約7万羽の飛来が確認されています。このため国際的にもその重要性が認知をされ、平成14年11月にスペインで開催されたラムサール会議において同沼が条約湿地として登録されたところです。

最高気温	33 強	平均気温	7.3 前後	平均風速	2.7 m前後
最低気温	-23 強	降水量	1,200mm前後	降雪量	8~9m

### 沿革

明治23年、北海道庁令により市来知ほか4戸長役場の管轄に属する沼貝村として誕生し、同24年から屯田兵が入植して開拓の歴史が始まりました。

明治39年には二級町村制が、また同42年には一級町村制が施行され、この年の戸数は2,108戸、人口は12,548人で、このうち農家が90パーセントを超える典型的な農村でした。

また、明治初期に発見されていた「ビバイ炭田」は、大正4年の三菱、昭和3年の三井の進出により大規模な炭鉱開発が加速され、この間、人口は全国最大の村となり、大正14年には町制を施行し、翌15年には沼貝町から美唄町に改称しました。

戦後の日本経済復興の原動力として石炭産業は活況を呈し、昭和24年には人口85,380人を記録、翌25年に市制を施行し、道内15番目の市となりました。

昭和30年代半ばからのエネルギー革命により、次々と炭鉱は閉山し、同48年には市内の全ての炭鉱が閉口しましたが、これを期に市民と行政が一体となって再生努力を重ね、農工商調和のとれた生産都市として生まれ変わりました。

平成元年には、はまなす国体卓球競技を開催、翌2年開基100年を、また平成12年には市制施行50年を迎えました。また、平成13年には公募によるまちづくり委員の意見や市民の声を尊重した「美唄21世紀まちづくりプラン」(第5期美唄市総合計画)としてまとめ、「福祉、環境、交流のまちびばい」を基本にまちづくりが進められています。

H16.4月末	総人口	29,973人	男性	14,474人	女性	15,499人	世帯数	13,376
---------	-----	---------	----	---------	----	---------	-----	--------

## 社会・生活環境

美唄市は、医療・福祉施設が充実しています。市立美唄病院・美唄労災病院をはじめ5つの病院、3つの医院、15の歯科医院があるほか、市保健センター、訪問看護センター等が地域医療を支えています。

まちづくりについては、昭和48年に北海道から福祉モデル都市第1号の指定を受けたことにも象徴されるように、官民一体となって早くから福祉の充実に努めてきました。平成9年からは住民参加による福祉のまちづくりを目指して、公募制による「福祉のまちづくり検討委員会」を設置し、様々な検討を積み重ね、その後「推進委員会」に衣替えして具体的に事業に取り組んでおり、市民の皆さんが住んで良かったと実感できる、ゆとりと潤いのある都市環境の整備に努めています。

また、教育機関は市立幼稚園・小中学校のほか、道立高校3校、養護学校1校、北海道中央コンピュータ・カレッジ等があり、中でも昭和43年に開学した専修大学北海道短期大学は、市民を対象とした講座を開設したり、多彩な教授陣や研究ネットワークにより大学の知的資源がまちづくりの各方面に大きく貢献しています。

日常生活では、市内母町地区の大通商店街、旭通り商店街をはじめ、開設当時道内でも先進的な取組として注目された、地元商店街による協同組合方式の大型店舗「コアビバイ」等を中心としたすすらん商店街など各商店街に多種多様の店があり、日常生活には事欠きません。また、現在進められている美唄駅周辺土地区画整理事業の一環で、駅東側に商業地区が整備されて、公園と隣接したショッピング街や、橋上駅舎などが完成しました。

また、高齢者にも住み良い公営住宅の立替えや公園の整備が順次進められ、市営住宅団地内にデイサービスセンターや在宅介護支援センターを兼ね備えた地域もあるほか、子育てを支える支援センター「はみんぐ」を平成14年4月にオープンしました。

このほか、特徴的なものとしては、美唄市の泥炭地層の改良研究を行っている北海道農業研究センター(生活環境部水田土壌管理研究室美唄分室)、全道の森林資源の向上と環境保全機能の高度発揮に関する研究を行っている道立林業試験場、市の防災・除雪・イベント等でも貢献いただいている陸上自衛隊美唄駐屯地などがあります。

## 2 美唄市の基幹産業

### 農業の位置・現状

美唄市の各産業における最近の生産額等は、農業粗生産が82.5億円、工業出荷額は232億円、商業売上は342億円となっており、文字どおり農工商調和のとれた生産都市で、農業は本市の重要な基幹産業の一つとなっています。

市の人口は平成16年4月末で29,973人となっていますが、このうちの約4,500人が農家人口で、その割合は約15%を占めています。

また、総面積の34%が農地で、そのうち92%が水田で、水稻の作付け面積及び収量とも旭川市、深川市に次ぐ全道3位、全国でも上位に位置しています。

米以外の作物では、麦がこれに次ぎ多く、このほか大豆、小豆、そば、アスパラ、玉ねぎ、軟白長ネギ、花きなどが作付けされています。

なお、美唄市農業の今後の共通の発展指針とするとともに、市の中・短期的な施策の樹立の基礎とする「美唄市農業・農村発展ビジョン」を平成10・11年度2カ年かけて策定し、現在はこのビジョンを基本に、農業者と農業関係機関・団体が一致協力して美唄農業の発展を目指していくこととしています。

さらに、平成16年度からは生産調整制度が変わり、この中で各農協ごとに「地域水田農業ビジョン」を策定し、この計画を基に水田農業の振興を図っていくこととなっています。

### 市内総世帯数及び農家戸数の推移

区 分	昭和58年	昭和63年	平成5年	平成9年	平成12年
総世帯数(世帯)	12,871	12,771	13,065	13,505	13,345
農家戸数(戸)	1,631	1,528	1,345	1,239	1,115
農家戸数の占める割合(%)	12.67	11.96	10.29	9.17	8.36

### 国勢調査に見る産業別分類就業者数の推移(農業分のみ)

(単位:人・%)

区分	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12
就業者	8,236	6,162	5,492	4,352	3,728	3,483	2,963	2,554	2,067
構成比	25.5	24.2	25.0	25.0	21.1	20.6	18.8	16.5	14.8

### 地目別面積(平成12年)

(単位:Km<sup>2</sup>)

面積	宅地	田	畑	山林	原野	池沼	牧場	雑種地	その他
277.62	11.20	87.98	7.15	99.95	1.10	0.26	0.75	7.72	61.51

(H14.1月 税務課調べ)

### 経営状況

生産調整が進む中で、基幹作物の水稻を中心に経営耕地面積は、10~20ha規模の農家が全体の30%で規模の拡大が進んでおり、全体の19%の農家が今後も経営面積規模を拡大することを希望しています。しかし、その一方で12%の農家が将来離農することも検討しています。

なお、本年度は水田総面積8,390haのうち約3,640haが転作目標面積となっています。

また、専業・兼業農家の状況は、専業農家が27%と兼業農家が増加してきています。

経営主の年齢をみると、51歳未満が47%、51歳以上65歳未満が40%、65歳以上が13%となっ

ており、昨年実施したアンケート調査によると、農業後継者が居る農家は全体の22%程度であり、担い手対策が重要な課題となっています。

作付面積（平成15年） （単位：ha）

品目	米	小麦	大豆	小豆	アスパラ	たまねぎ	そば
作付面積	4,870	2,400	402	40	46	51	232

品目別農業粗生産（平成14年） （単位：億円）

区分	米	畑作物	野菜	花き	畜産
農業粗生産額	55.8	12.7	4.9	4.4	0.3

#### 新たな取り組み

ア 各農産物の栽培技術改良や商品化に取り組んでいます。

水稲では、独自に折衷直播方式を取り入れた栽培技術を全道に先駆けて確立し、栽培方法や機器の改良を進めており、この研究の母体となっている「美唄市水稲直播研究会」は、平成9年ホクレン夢大賞を受賞しました。また、平成10年8月には全国直播サミットが開催され、全国から2千人もの視察者が来訪しました。

アスパラは、新たな栽培方法「こもれび栽培」を導入促進し、これまで出荷できなかった時期にも出荷が可能となり、かつて全国1の出荷量と品質を誇ったアスパラの再生を目指しています。また、こうした美唄市グリーンアスパラ生産組合の努力と実績に対して平成12年ホクレン夢大賞が贈られ、市内では美唄市水稲直播研究会に続いて2件目のホクレン夢大賞受賞となりました。

さらに、ハスカップは収穫量が全国一の規模となりこれを原料とした「ドラキュラの葡萄」製品が各地で販売されているほか、ハスカップ狩りも知名度が上がり市内外から親子連れ等の来訪者が増えています。

#### イ クリーン農業の推進

食品の安全や衛生に関する関心が高まる中で、特別栽培米等有機無・低農薬に取り組んでいるグループ等が数多くあり、中でも元氣招会では畦にハーブを植え自然の力を利用して害虫を防ぐ、独創的な取り組みを進めています。また、この会は、その活動が高く評価され、第3回全国環境保全型農業推進コンクールにおいて優秀賞を受賞し、平成15年3月には、会長の今橋夫妻が畦畔ハーブや除草機・捕虫機の研究開発等の取り組みが認められ、第32回日本農業賞大賞を受賞しました。

こうしたハーブの取り組みは、元氣招会の地元JAみねのぶでも積極的に取り入れ、同JA管内各所で植栽が進み「香りの畦みちハーブ米」として商標登録し推進されていますが、さらに平成13年度からは、JAびばい管内でもハーブの植栽が始まっています。

このほか、昭和63年から特別栽培米を推進している中村つくし会、百商屋なども米、野菜、花きなどの栽培に取り組み、着実に実績を伸ばしています。

また、既にJAS法に基づく有機表示の認証を受けた農業者もいますが、今後さらに認証取得の動きが出ています。さらに、平成14年度には北海道独自の「北のクリーン農産物表示制度（YES!clean）」にJAびばい蔬菜部会のきゅうり研究会の「きゅうり」とトマト研究会の「トマト」が登録されました。中でも「きゅうり」は道内初の登録となりました。

#### ウ 直売所や消費者との交流の促進

これまでは農業生産に力点が置かれてきましたが、消費者動向にも注視し、売れる農産物づくりの意識が高まってきました。市内各所で女性が中心となって直売所が開設されたほか、体験型農園も、峰延のハスカップ狩り、光珠内のもぎとり農園、進徳の体験工房と着実に増加し、多くのお客さんが訪れています。

また、地元から古くから伝わる名産の味を商品化した「なかむらのとりめし」は、各種イベントで販売されているほか、地元びばいはもとより、現在では近隣の各JAのAコープ店舗でも販売されるなど着実に業績を伸ばしており、このとりめしを製造している「郷の味なかむらえぶろん倶楽部」は平成14年度北海道産業貢献賞を受賞しました。

北海道が制定している「ふれあいファーム」への登録も年々増加し、現在まで合計23件となりました。

#### エ 農業クラスター等の動き

農業クラスターに関する研究組織がいくつか組織され、地元企業とタイアップして省力化のためのPCハウス管理装置が実用化されさらに研究改良が進められたほか、地元試験研究機関と連携して組織培養技術を利用した新たな花き特産品種の普及や加工品の開発、さらに自然エネルギーの一つとして雪を利用した農産物の貯蔵方法・加工などの研究も進められ、平成12年産米からJAびばいが自費で建設した10万俵の米を貯蔵できる「雪蔵工房」が供用開始されています。この施設は雪の冷熱エネルギーを利用し玄米貯蔵に最適な温度・湿度を保ち常に新米同様の食味を維持することが目的で、電気冷房の場合の過乾燥が防げるほか排熱を伴うこともなく自然環境に優しい貯蔵方法であるといえます。現在は、更にこうした雪エネルギーを利用した「雪蔵味噌」などの特産品開発の研究が進められています。

なお、こうした雪の冷熱エネルギーを利用した施設は農業施設に留まらず、マンション、老人保健施設、個人事務所、住宅でも導入されています。

また、地元の公立試験研究機関や先端企業ともタイアップした様々な技術開発も進められています。

#### オ 農産物の付加価値を高める取組み

農業粗生産額は、米価下落や転作による水稻作付の減少により年々落ち込んでおり、また、他の作物も産地間競争が厳しく価格も低迷しているため、安全・安心で良質な農産物を生産し、付加価値を高める取組みが必要となってきています。

米は新しい微細製粉技術をもとに美唄産米を試験製粉して米粉のパン・麺などを試作し、地元の製パン業者が米粉パン製造技術を習得され、美唄産米のパンの商品化が実現しました。また、市内業者や道食品加工研究所などの協力により、米粉普及の可能性や課題の調査・研究や学校給食への試験導入、さらに道内技術による製粉実施の検討を行っています。

大豆も地元の豆腐製造事業者と農協の協力により美唄産大豆の豆腐が商品化され、市内及び札幌の大手スーパーでも販売されています。

#### カ 食農教育の取組み

美唄市農業が将来に渡って持続的に発展していくためには、農業・農村に対する市民の理解促進が必要であり、子供たちにも地域の基幹産業である農業に早期から実体験的に触れさせることで、農業・農村や食料に関心を高め、理解を深めるとともに子供たちの生きる力の

育成とふるさとを愛する心を育み、将来の展望として地域農業の担い手へと結びつけるため、平成14年度から総合的な学習の中で、水稻栽培等の農作業体験や、農家・農業施設等への視察研修を行っております。

なお、この取組みは平成16年度からは教育委員会が取り組む「食農教育推進事業」に継承されています。

#### キ その他の多角的な取組み

グリーン・ツーリズムの研究会が結成され体験・直売・流通・交流といったお互いのそれぞれの取組みの繋がりをつくり、美唄らしいグリーン・ツーリズムの検討も始まっています。こうした活動をベースに平成16年度からは、本州方面の高校等の修学旅行生の農業体験も受け入れる予定となっています。

また、地域において農業振興のための方策や新たな農業技術の開発が検討されたり、市内3つのJAエリアを越えて女性達がお互いの研鑽や交流を目指して組織を結成するなど、農業農村の動きは活発になっています。

さらに、農村景観に関する関心や意識も高まっていますが、平成12年度からは市内各農協青年部が主体となって、農場看板整備が始まり、約100基の統一看板が設置されました。

一方農村の生活環境の向上方策として平成13年度から合併浄化槽設置事業が開始されました。高齢者にも住み良く、衛生的な住環境を整備するとともに、生活排水による環境汚染を防ぎ、快適な農村環境の確立を目指しています。

### 3 本市の農業関係機関・団体及び国・道の機関等

#### 本市農業振興の協議機関

##### 美唄市農業振興協議会

構成 = 市、美唄市農業委員会、ＪＡびばい、ＪＡみねのぶ、ＪＡいわみざわ、  
空知中央農業共済組合、美唄市農民協議会、峰延農民協議会、北海土地改良区、  
空知中央地区農業改良普及センター、北海道農政事務所第八課、北海道農業研究セ  
ンター（生活環境部水田土壌管理研究室美唄分室）  
会長 = 美唄市長、 設置 = 昭和 57 年 4 月  
下部機関 = 幹事会、推進委員会

#### 農業協同組合（データは平成 14 年 11 月現在）

##### 美唄市農業協同組合

エリア = 美唄市の一部、本所 = 美唄市大通東 1 条北 1 丁目 2 - 1  
水田農家戸数 = 662 戸、 本地面積 = 5359.50ha、  
設立 = 昭和 23 年 4 月、 沿革 = 平成 6 年 2 月中村農業協同組合と合併

##### 峰延農業協同組合

エリア = 美唄市・三笠市・岩見沢市・北村の各一部、 本所 = 美唄市峰延町本町  
水田農家戸数 = 266 戸、 本地面積 = 2574.09ha、 設立 = 昭和 23 年 4 月

##### いわみざわ農業協同組合（掲載数字はいずれも美唄市行政区域分の数値）

エリア = 岩見沢市及び美唄市・三笠市・江別市・栗沢町・月形町の各一部、  
本所 = 岩見沢市、 水田農家戸数 = 42 戸、 本地面積 = 449.97ha、  
支所等 = 大富支所（美唄市西美唄町の一部）、  
岩見沢、北村、幌向、三笠、栗沢各支所、  
設立 = 平成 5 年 2 月、 沿革 = 平成 13 年 2 月 ＪＡくりさわが合併

#### 国・道の指導機関等

農業事務所（国交省） = 国土交通省北海道局札幌開発建設部岩見沢農業事務所  
農政事務所第八課（農水省） = 北海道農政事務所第八課  
統計・情報センター（農水省） = 札幌情報・統計センター岩見沢出張所、  
空知森林管理署（林野庁）  
道庁出先（道） = 空知支庁（農業振興部農務課、耕地課、管理課、経済部林務課）  
空知中央地区農業改良普及センター、空知支庁東部耕地出張所  
空知森づくりセンター、北海道立林業試験場

#### その他市内の主な農業関係団体

共済 = 空知中央農業共済組合、 農民協議会 = 美唄市農民協議会、峰延農民協議会  
土地改良区 = 北海土地改良区、 森林組合 = 美唄市森林組合

#### 4 本市が設置する主な農業施設

##### 基幹施設

##### ア 米関係施設

###### 美唄市米穀乾燥調製施設

処理量	7,920 t (精玄米)	処理面積	1,650 ha
乾燥機	20 t × 5台	調製施設	6ライン
貯留施設	タンク 3,840 t (480t × 8基) 角ビン 1,000 t (50t × 20基)		
付帯施設	色彩選別機 自主検査装置 湿式・乾式集塵機 荷受設備 出荷設備		
平成10年8月着工	平成11年9月竣工	地域農業基盤確立農業構造改善事業	

###### 有機物製造供給施設

処理量	2,199 t (籾殻)	処理面積	1,650 ha	原料庫	1,500 m <sup>2</sup>
膨軟化設備	2基	籾殻炭化装置	2基	堆肥盤	1,460 m <sup>2</sup>
付帯設備	籾酢液採取装置 直取り設備 計量設備 集塵装置				
平成11年3月着工	同年9月竣工	山村振興等農林漁業特別対策事業			

##### イ、麦関係施設

###### 美唄市小麦集出荷調製施設

処理量	2,100 t (屑除く)	処理面積	500 ha
調製施設	粒選別機3基2系列 石抜機3基2系列 比重選別機2基		
貯留施設	15 t 5基2系列		
平成13年3月着工	平成13年7月竣工	農業生産総合対策事業	

##### 関連施設

##### ア 美唄市農道離着陸場

隣接の茶志内地区には、道内で4カ所整備された農道離着陸場の一つである美唄市農道離着陸場があり、昨年より運用が開始されました。現在各地のイベントなどに合わせた農産物の空輸を計画しているほか、多目的利用が可能となったことから、さらなる利活用の方法が模索されています。

###### 美唄市農道離着陸場の概要

滑走路	800m × 25m	着陸帯	920m × 60m	誘導路	37.5m × 9m
エプロン	2ヵ所 750m × 40m	標高	19.90m	滑走路方位	12° 18' 07"
付帯施設	管理棟 無線施設 保安施設 気象施設			駐車場20台	

# 美唄市農業の概況 (平成16年5月26日作成)

## 農業・農村プラン

- ・美唄市農業振興地域整備計画 (平成2年策定、昭和47年地域指定)
- ・美唄市農業・農村発展ビジョン (平成11年策定、目標平成16年)
- ・美唄市地域農業マスタープラン (平成12年策定、目標平成16年)
- ・美唄市農業経営基盤強化促進基本構想 (平成14年策定、目標平成18年)
- ・美唄市田園環境整備マスタープラン (平成14年策定)

## 専兼業別農家数 (H12世界農林業センサス)

単位：戸

総数	専業農家	兼業農家	兼業農家		自給的農家
			第1種兼業	第2種兼業	
1,115 (100.0%)	301 (27.0%)	728 (65.3%)	556 (49.9%)	172 (15.4%)	86 (7.7%)

## 耕地面積 (H15農林水産統計)

単位：ha

総数	田耕地	畑耕地	畑耕地		
			普通畑	樹園地	牧草地
9,470 (100.0%)	8,770 (92.6%)	695 (7.4%)	531 (5.6%)	32 (0.4%)	132 (1.4%)

## 農業産出額・農業所得

種別	農業産出額	耕種計	耕種計のうち主なもの				
			計	米	麦	花き	畜産計
平成10年	9,504	9,459	7,307	658	174	18	
平成12年	8,375	8,351	6,461	665	146	16	
平成14年	7,883	7,855	5,580	1,079	180	10	

単位：100万円

				生産農業所得		
			畜産計			
野菜	果実	花き		1戸当たり	10a当たり	
831	42	416	45	3,856	2,975千円	41千円
613	68	375	24	3,850	3,452千円	41千円
487	70	441	28	4,280	3,839千円	45千円

## 主要農作物 (農林水産統計ほか、農作物H15年産、青果物H14年産)

単位：作付ha、収穫量t 順位：全道

水 稻				小 麦				大 豆			
作付	順位	収穫量	順位	作付	順位	収穫量	順位	作付	順位	収穫量	順位
4,870	3	22,500	3	2,400	10	11,400	16	402	11	958	8

そば				たまねぎ				アスパラガス			
作付	順位	収穫量	順位	作付	順位	収穫量	順位	作付	順位	収穫量	順位
232	13	213	12	65	25	3,430	27	45	9	116	7

ハスカップ				ト マ ト				メ ロ ン			
作付	順位	収穫量	順位	作付	順位	収穫量	順位	作付	順位	収穫量	順位
15	2	40.5	1	5	29	265	35	9	34	164	36

## 豊かでクリーンな農業づくり

### 1 クリーンで安心・安全な農産物の供給

#### (1) 畦畔ハーブ

市内の生産者が研究・実用化した、ハーブの繁殖力を利用したカメムシの住みにくい環境づくりにより、薬剤に頼らない低農薬・減農薬の米づくりが広がっています。  
峰延農協では「香りの畦道ハーブ米」と命名し、水田農業ビジョンでも、戦略作物である地域ブランド米として位置付けました。(平成14年4月 商標登録)

#### (2) 雪令熱エネルギー

美唄市農協は、雪の令熱エネルギーを利用して玄米の貯蔵に最適な温度・湿度環境を作り、劣化抑止が可能な冷房装置を備えた米穀雪零温貯蔵施設「雪蔵工房」を建設しました。(貯蔵量 10万俵)  
このエネルギーを利用した農産物や加工品の貯蔵などの研究も進められています。

#### (3) YES! Clean (北のクリーン農産物表示制度)

栽培履歴を記帳するなど一定の基準をクリアし、生産・出荷される農産物について「YES!cleanマーク」を表示し、併せて化学肥料などの使用回数等の栽培情報お知らせする道の制度を利用し、平成15年から「きゅうり」や「トマト」にこのマークを付けて出荷しています。

### 2 農業生産の低コスト・省力化

#### (1) 水稻直播栽培

「美唄水稻直播研究会」を中心に、全道に先駆けて水稻直播の研究に取組み、独自の乾田播種早期湛水直播方式を生み出しました。この取り組みは、平成9年にホクレン大賞を受賞しています。平成15年度の作付面積は52.2ヘクタールで、全道の直播面積の約3割を占めています。

### 3 農産物の高付加価値化と収益性の高い農業の確立

#### (1) こもれび立茎栽培

「美唄市グリーンアスパラ生産組合」が佐賀県の立茎栽培を北海道で最初に取り入れ、夏場における出荷を可能とし、「夏得物語」と名付け販売しています。  
この取り組みにより同組合は、平成12年のホクレン夢大賞を受賞しています。

#### (2) 米粉

米の高付加価値化を目指して、新しい微細製粉技術をもとに美唄産米を使用した米粉によるパン・麺などの試作を進め、商品化が実現しました。現在、米粉の可能性に向けた課題の調査・研究などを行っています。

#### (3) 地産地消

美唄産大豆100%の「豆腐」が生産者と市内加工業者との連携により発売され、市内はもとより札幌の大手スーパーへも常時納入されています。

### 4 農業経営の改善

#### (1) 認定農業者連絡協議会

道内でも数少ない認定農業者による自主組織の「美唄市認定農業者協議会」が平成14年6月発足しました。市内認定農業者の総数に近い300名以上が参画する全道最大規模の組織となっており、経営改善へ向けた自主的な取組みを進めています。なお、平成16年3月末における認定農業者数は433経営体となっています。

### 5 その他の取り組み

#### (1) スローフード

地域に古くから伝わる伝統の味を農村女性グループが「なかむらのとりめし」として商品化し販売を開始、市内外で着実に定着しています。この取組みは、米の消費拡大に結びついているほか、地域の女性の交流の場を築き地域の活性化にもつながっており、こうした取り組みが高く評価され、平成15年2月、北海道産業貢献賞を受賞しました。

#### (2) グリーン・ツーリズム

市内で農産物生産・直売、農産物加工体験などを取り組む生産者、さらに農産物を扱う農協、運輸会社、郵便局や各種団体・個人が参加した「美唄市グリーン・ツーリズム研究会」が平成12年3月発足し、都市住民への美唄の農業・農村の情報発信を進めています。今年からは、「そらちDEい〜ね」の会員として、修学旅行生の農業体験の受入れも始めます。  
また、昨年オープンした温泉施設「ゆーりん館」隣に設置した体験交流館を利用し、農産物直売所「びばま〜と」が5月から開設されました。